

○青年警察官に対する教養推進要綱の制定について（例規通達）

昭和 42 年 8 月 10 日

群本例規第 23 号（教）警察本部長

〔沿革〕

昭和 43 年 3 月群本例規第 7 号（務）、51 年 3 月第 3 号（務）、60 年 8 月第 10 号（務）、62 年 4 月第 7 号（務）、平成 2 年 3 月第 4 号（務）、4 年 6 月第 18 号（務）、14 年 3 月第 8 号（務）、15 年 10 月第 32 号（務）、23 年 2 月第 5 号（総企）改正

「青年警察官に対する教養推進要綱」を別添のとおり定め、昭和 42 年 8 月 10 日から実施することとしたから、目的達成に努められたい。

別添

青年警察官に対する教養推進要綱

（目的）

第 1 条 この要綱は、初任科教養課程を終了した巡査の階級にある警察官（巡査長たる巡査を除く。）で、年令 25 才未満かつ実務経験 5 年未満のもの（以下「青年警察官」という。）に対する教養を推進し、群馬県警察（以下「県警察」という。）における青年警察官の人格のとうやと執務能力の向上をはかることを目的とする。

第 2 条から第 7 条まで 削除

（教養責任者）

第 8 条 青年警察官の所属する所属の長を青年警察官に対する教養責任者（以下「教養責任者」という。）とする。

2 教養責任者は、第 1 条の目的を達成するため、所属の幹部および巡査長が一体となり、あらゆる機会を通じて青年警察官の指導教養を徹底して行なうよう特段の配慮をしなければならない。

（教養担当者）

第 9 条 青年警察官の所属する本部の課の次席（隊にあつては副隊長）、警察署の副署長及び教養責任者が指名する幹部を教養担当者とする。

2 教養担当者は、青年警察官の教養推進について教養責任者を補佐するとともに、青年警察官に対し全般的な指導教養にあたらなければならない。

（その他の幹部等）

第 10 条 教養担当者以外の幹部および巡査長は、青年警察官に対する指導教養について、教養責任者の意図のもとに青年警察官に対する実務・規律・しつけ等の指導教養を積極的に推進しなければならない。

（指導教養の重点）

第 11 条 青年警察官の指導教養にあたつては、次に掲げる事項に重点をおいて実施しなければならない。

（1） 職責に対する確固たる信念、おう盛な責任感および厳正な規律観念の養成に努め、組織体の一員としての自覚を促進すること。

- (2) 正しいことばづかい、礼節および端正な服装態度を養成すること。
 - (3) 警察の各種執行務についての基本的な処理能力および良識に根ざした適正な判断力の向上を図ること。
 - (4) 各種の術科訓練を推進し、職務執行に必要な強じんな体力、おう盛な気力および厳正で節度ある動作を育成すること。
 - (5) 生活環境の改善、合理的な生活設計、明るい規律ある私生活ならびに健全な趣味、娯楽およびスポーツ等について指導教養を行ない、正しい生活態度の養成を図ること。
- (指導教養上の留意事項)

第12条 青年警察官の指導教養にあたっては次に掲げる事項に留意しなければならない。

- (1) 心身の発達の過程にある心情を理解し、いたずらに非難、抑圧、甘やかしまたは迎合することなく、誠意と愛情をもつてあたること。
 - (2) 自主的な意欲をもり立たせるとともに、若い活動力を正しい方向へ発揮させるよう意を用いること。
 - (3) できる限り話合いの機会を設け、どんなささいなことでも相談のできるようなふんい気をつくるようにするとともに、不安や悩みごとについては、勤務態度その他から察知し、積極的に相談に応ずるようにし、問題の解消につとめること。
 - (4) 職務上の教養にあたっては、機会教養、個別教養および実地指導等の教養方法を積極的にとり入れること。
 - (5) 実践的な教養をするため、討議式事例研究、演習演練および視聴覚教養等の教養方法を活用すること。
- (教養の実施)

第13条 警務部教養課長は、次に掲げる教養を行うものとする。

- (1) 集合教養
教養担当者の研究会及び検討会
- (2) 巡回教養
各所属における指導教養推進状況の検討
- (3) 資料の発行
教養だよりに青年警察官の指導教養の資料を登載する。
- (4) 機関誌の活用
上毛警友その他の機関紙により、先輩警察職員との意思の疎通並びに精神面及び生活面の教養を図る。

2 教養責任者は、別表若い年令層の警察官に対する指導教養基準により、教養を行なうものとする。

(教養結果の活用)

第14条 教養責任者は、青年警察官に対する教養を実施したときは、その内容を記録して後日これを活用するよう配意しなければならない。

別表省略